

Weekly Market Report

Sep 09, 2019

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

今週はECB理事会、米小売売上高に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週の米ドル円相場は105円台後半～107円台前半で推移した。米中貿易戦争が長期化するも市場に大きな混乱の様子はなく、週半ばに発表されたISM非製造業景気指数が予想を上回る結果だったこと等を受けてドル買い・円売りが進んだ（但し、3日発表のISM製造業景気指数は予想を下回る結果）。週末に発表された米雇用統計は雇用者数の伸びが予想を僅かに下回ったが、反応は限定的であった。今週の主なイベントはECB理事会と米小売売上高の2つ。前者では金融緩和の強化が予想されており、その内容次第では、現在世界的に拡大しているマイナス金利の勢いを強める可能性もあり注目が集まる。後者は足元の米国・個人消費の現状を確認する材料となる。米国製造業の景況感が悪化する中、GDPの約7割を占める個人消費が米国経済を支え得るか、注目である。（市場営業部/高橋敦彦）

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
9/12(木)	(日) コア機械受注 (前月比)	-9.8%
9/12(木)	(欧) 鉱工業生産 (前月比)	0.1%
9/12(木)	(欧) ECB理事会	
9/12(木)	(米) CPI除食品・I補 [®] - (前年比)	2.3%
9/13(金)	(米) 小売売上高 (前月比)	0.2%

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
國井靖子	106.00 - 108.00	香港や英国情勢への楽観論台頭でリスクオフ後退も、FOMCを控え上値は限定的か。米経済指標に注目。
梅村隼人	105.50 - 108.00	ECBが緩和姿勢を強めれば、ユーロは対ドルでもう一段の下落可能性も残る。ドル、円共に強含む週となりそう。

2. 円金利相場概況

米経済指標に一喜一憂の展開。今週はECB理事会や、米国の消費関連経済指標に注目か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright© 2019 Bloomberg Finance L.P. 09-Sep-2019 07:19:11

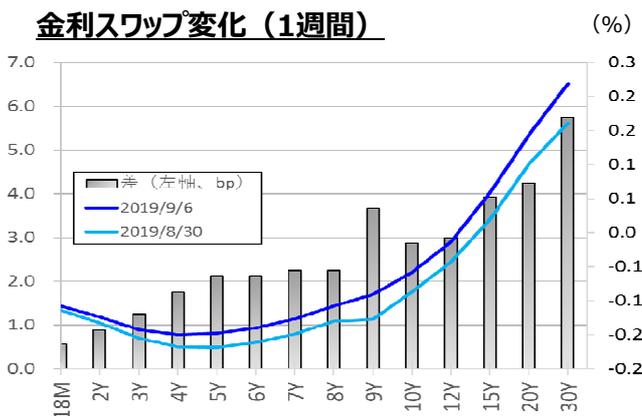
(出所) Bloomberg

コメント

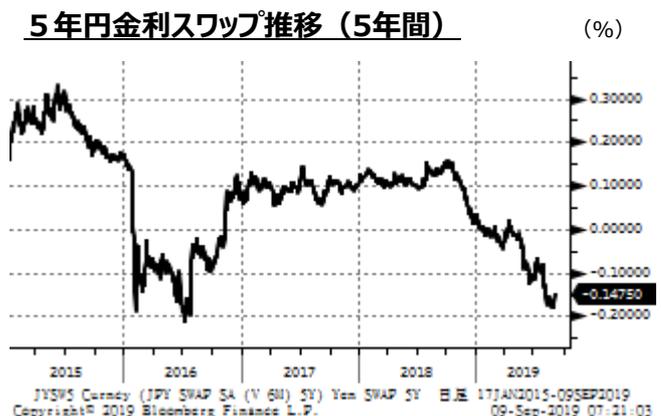
先週のマーケットは、米国8月ISM製造業指数が好不況の境目である50を約3年振りに下回るなど一時リスクオフの流れが強まるも、香港における逃亡犯条例の正式撤回や米中貿易協議の懸念後退に加え、予想を上回る米ISM非製造業指数および8月ADP雇用統計などを受け、一転して週末にかけリスクオン・ムードが広がり、本邦10年債利回り(長期金利)は前週末比+3.2bpの▲0.237%で引けた。週末の米8月雇用統計は、強弱混合の結果に終わり、概ね予想通りのパウエルFRB議長の講演と相まって、市場への大きな影響は見られなかった。

今週は、相応の金融緩和パッケージ発表を余儀なくされるであろうECB理事会を12日に控える他、未だ方向性が見通せない米中貿易摩擦やBrexit、香港情勢などの問題も燻っていることを踏まえ、中長期的な長期金利のマイナス圏深掘りを見据えつつ、押し目買い機会を伺う展開を見込む。米経済指標でも依然堅調な消費関連指標の発表が予定されており、突発的な下振れには留意したい。(市場営業部/鳥本)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
高野一歩	▲0.29% - ▲0.22%	足元リスクオン気味で推移するも、12日のECB理事会で期待を裏切る結果となれば相場が高下する可能性あり、留意したい。
伊豆浦有里恵	▲0.28% - ▲0.22%	高値警戒感から上値追いには慎重姿勢も、各国緩和期待を背景に下値では押し目買いが見込まれ高値圏での揉み合いか。

3. 今週のトピックス

ポンド相場アップデート

EU離脱を巡る不透明感からポンドは3年ぶり安値へ。離脱期限前に首相と議会の対立は続く。

BOEは8月の金融政策委員会で現状維持を決定

イングランド中央銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)は、8月1日に行われた会合にて政策金利の据え置きを全会一致で決定した。また、同会合で発表された四半期に一度のインフレポートでは、足元2年の成長見通しが下方修正された一方、物価見通しについては2020年、2021年が上方修正された【図1】。英国のEU離脱を巡る不透明感と、世界的な景気減速懸念等が成長見通しの引き下げにつながっている。尚、上記のBOEによる成長率、物価見通しはスムーズなEU離脱を想定した上でのものであり、合意なき離脱といった事態は想定されていない。BOEは現在も緩やかで限定的な利上げが適切とのスタンスを維持しているが、EU離脱の着地点を見ない限りは利上げ・利上げどちらにも動けない状態となっており、当面は様子見姿勢が続くだろう。

ポンド売りが加速し、2年ぶりの安値水準へ

ポンド相場は、ジョンソン英首相の就任以降、合意なき離脱への懸念が高まる中で売りが優勢となっており、今月には対ドルで1ポンド=1.2ドルの台を割り込んでおり、対円でも1ポンド=130円を割り込む等、約3年ぶりとなる安値水準での推移が続いている【図2】。ポンドのIMMポジションを見ても一時10万枚を超える売り越しとなる等、売りが止まらない状況だ【図3】。英国の4-6月期のGDP(速報値)は前期比0.2%減と6年半ぶりにマイナス成長に陥る等、離脱交渉の不透明感が实体经济にも着実に悪影響を与えている状況であり、離脱交渉の道筋が見えない限りは明確な反発は見込みづらいだろう。

早期の総選挙は回避される見込みも、予断を許さない状況が続く

英国のEU離脱期限は10月末に迫っているが、ジョンソン首相は就任当初から10月末でのEU離脱を強く主張しており、現在もそのスタンスは変えていない。野党は10月末での合意なき離脱を回避すべく、英国政府がEUに対して離脱期限の3ヶ月延長を申し入れることを義務付ける法案を提出し、上下院ともに可決した。これに対しジョンソン首相は解散総選挙を9日にも再提案する見込みだが(9月4日にも総選挙を提案したが野党労働党の棄権もあり可決されず)、労働党を含む複数の野党は賛成しない方針を示しており、解散総選挙の早期実施は難しい状況。今後の基本シナリオとしては、3ヶ月の離脱期限延長確定を待って総選挙実施という流れだが、総選挙で保守党が国民の信任を得て、ジョンソン首相が再び早期のEU離脱を目指す可能性も残っているため、予断を許さない状況が続きそうだ。

(市場営業部/坂本)

【図1】BOEによるGDP、CPI見通し

		5月会合	8月会合
GDP	2019年	+1.5%	+1.3%
	2020年	+1.6%	+1.3%
	2021年	+2.1%	+2.3%
CPI	2019年	+1.6%	+1.6%
	2020年	+2.0%	+2.1%
	2021年	+2.1%	+2.4%

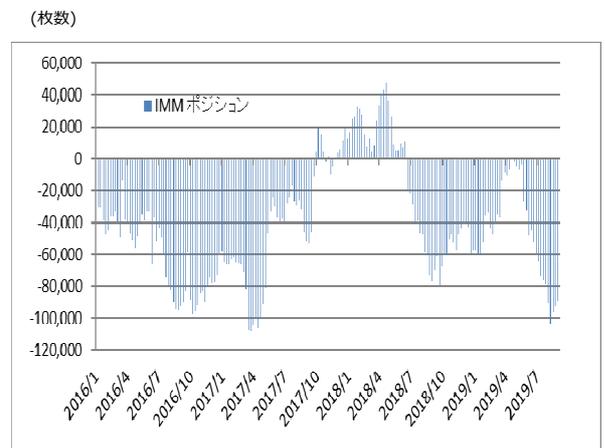
(出所 BOEのデータを基に作成)

【図2】ポンド相場(対ドル、対円)



(出所 Bloomberg)

【図3】ポンドIMMポジション



(出所 Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会